

～東海道 保土ヶ谷宿 にタイムスリップ～

歴史を歩いてみよう



保土ヶ谷宿

保土ヶ谷宿は、慶長6年（1601）東海道に宿駅の制度が定められた際に、幕府公認の宿場として誕生しました。江戸から約33Km（8里9丁）で品川・川崎・神奈川に続く4番目の宿場です。

宿場が担う役割は、荷物の運搬に要する人馬などの継ぎ立てや旅人の休泊施設の提供、飛脚の業務などがありました。

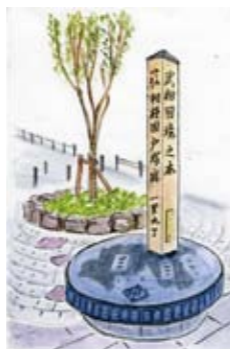
街道は、幕府によってすべて管轄が定められていました。保土ヶ谷宿は、芝生村追分（現在の西区との境）から、境木地蔵（現在の戸塚区との境）までの約5Kmで、追分から北は神奈川宿、境木地蔵より南は戸塚宿の管轄でした。

宿場としての街並みを整えていたのは、約2Kmの間で、この間は宿内と呼ばれました。宿内には、本陣を中心に旅籠や茶屋、商店が立ち並び、宿場町としてにぎわいをみせていました。

保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部 ほどがやガイドボランティアの会
保土ヶ谷区役所

三島 沼津 原吉 原蒲 原由井 興津 江尻 府中 鞠子 岡部 藤枝 嶋田 金谷 日坂 掛川 袋井 見付 浜松 舞坂 新居 白須 賀二川 吉田 御油 赤坂 藤川 岡崎 池鯉鮒 鳴海 宮桑 名四日市 石薬師 庄野 龜山 関坂 之下 土山水口 石部 草津 大津【京都 三条 大橋】

24. 境木地蔵尊 →
創建は江戸初期（1659年）江戸からの講中や道中の安全を祈る旅人が多く参拝した。現在のお堂は関東大震災後、再建された。



26. 萩原代官屋敷跡 →
萩原家は平戸の領主で代々旗本杉浦越前守の代官をつとめ、幕末の頃にはこの場所に道場を開いた。今は武家屋敷門と倉が残る。



← 25. 武相国境モニュメント
この地が武蔵国（保土ヶ谷宿）と相模国（戸塚宿）の境であり、昔は木の杭が立てられていたのが境木という。このモニュメントは平成17年に設置された。



23. 境木立場跡 →
保土ヶ谷宿から戸塚宿からも難所の坂を上り詰めたところに、旅人や馬が休息するための立場が設けられ、数件の茶屋があった。その内の1軒が現存し、明治天皇も休息された。



← 22. 投げ込み塚の碑
昔、街道の近くに旅の途中で行き倒れた人や牛馬を葬った場所があった。その後、平戸の東福寺に手厚く改葬され、供養のためにこの碑が建てられた。



↑ 21. 権太坂
昔は今より急坂で江戸からの旅人がはじめて出会う難所であった。一番坂と二番坂があり松並木が続き景色も良く富士が眺められた。

19. 樹源寺
鎌倉時代に建てられた医王寺が焼失した後、江戸時代初期（1628年）に苅部家により身延山久遠寺の末寺として開山した。庭園が美しい。日蓮宗。 ↓



20. 帝釈天と旧元町橋跡 →
昔、今井川は帝釈天の祠のある山裾に沿って流れ、祠の下あたりに旧元町橋があった。今の元町橋は川筋を変えた後のもの。

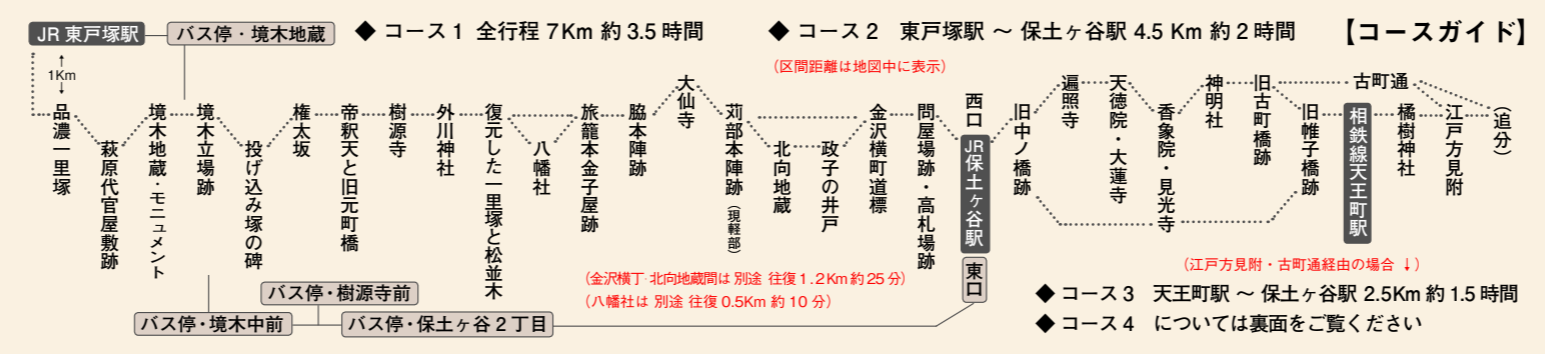


「宿場の施設とその役割」

- 【旅籠】** 一般の旅人が宿泊した。飯盛り宿と平宿の区分があった。
- 【本陣と脇本陣】** 公家、大名、幕府の公用の役人だけが泊まることができた。本陣で足りなくなると脇本陣が使われた。
- 【茶屋】** 旅人の休息のための店。
- 【問屋場】** 公用旅行者の荷物の運搬（馬継立）や飛脚の業務を取り扱うところ。
- 【茶屋本陣】** 本陣に匹敵する規模の茶屋で、宿泊しない大名などが休憩した。

して、一里ごとに小高く盛り土をして木を植えたもの。

【見附】 宿場の門の役目として上方見附と江戸方見附がありその間を「宿内」という。要人を宿役人が見附で迎え、大名行列はここから威儀を正して進んだ。（見付とも）



案内サインの種類と地図記号

- ★ 総合案内板 ↓
- ⊙ 史跡説明板 ↓
- ◆ 標柱 ↓

◆発行 横浜市保土ヶ谷区役所 区政推進課
〒240-0001 保土ヶ谷区川辺町2-9 TEL: 045-334-6227 FAX: 045-333-7945

◆製作 構成：飯塚 充 挿絵：村田啓輔

◆協力 保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部 ほどがやガイドボランティアの会
発行年：平成18年3月初版 平成20年3月第2版
横浜市広報印刷物登録代190688号 類別・分別 C-QA010